

新規事業採択時評価結果（平成26年度新規事業化箇所）

担当課：国道・防災課

担当課長名：茅野 牧夫

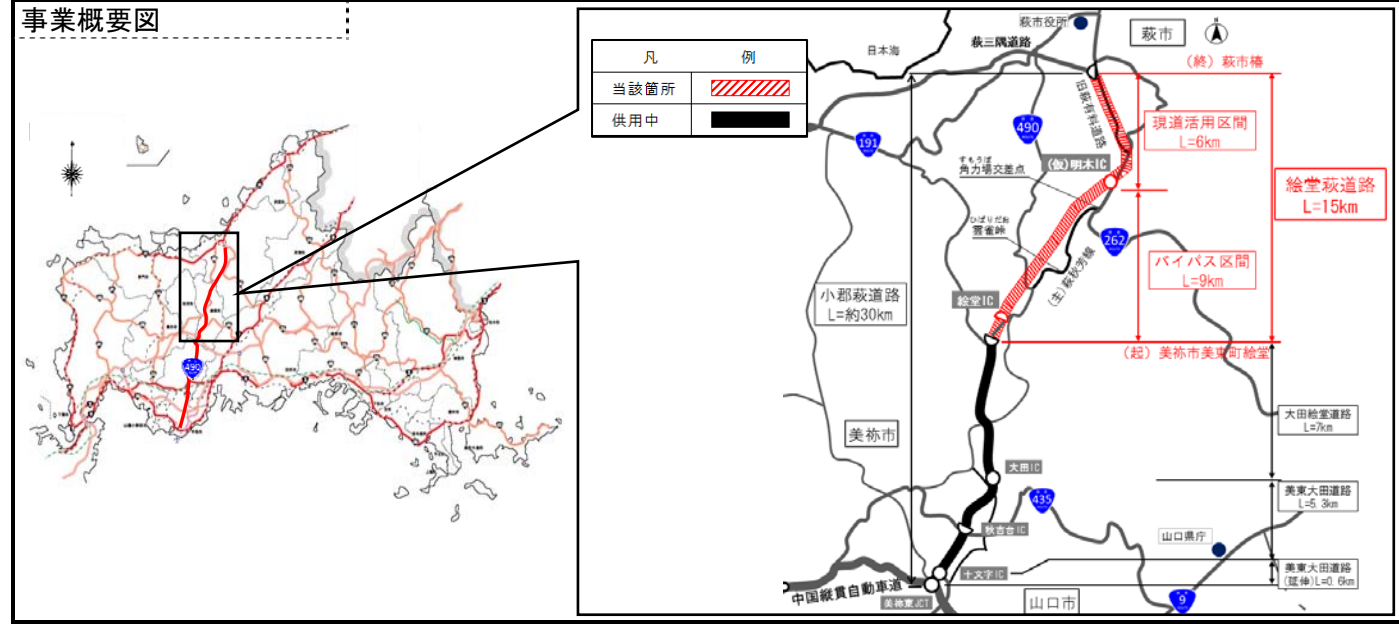
事業の概要

事業名	地域高規格道路 小郡萩道路 一般国道490号 絵堂萩道路	事業区分	一般国道	事業主体	山口県
起終点	自：山口県美祢市美東町絵堂 至：山口県萩市椿	延長	15.0 km		

**事業概要**  
小郡萩道路は、県央の交通の要衝である山口市小郡、主要観光地である秋吉台、山陰の中心都市である萩市を結び、中国縦貫自動車道等と連結する延長約30 kmの地域高規格道路である。  
一般国道490号絵堂萩道路は、小郡萩道路の一部を構成する延長15 kmの道路であり、集落の孤立回避など地域の安心・安全の確保や、地域産業の活性化を図る重要な道路である。

**事業の目的、必要性**  
絵堂萩道路は、  
・豪雨時等の災害による孤立集落を解消  
・第一次緊急輸送道路の代替性を確保し、災害に強い広域的な道路ネットワークを構築  
・救急医療施設へのアクセスの向上  
・高規格な道路ネットワークの構築による観光産業や水産業などの地域産業の活性化に資する道路である。

全体事業費：約260億円      計画交通量：約12,000台/日



**関係する地方公共団体等の意見**  
萩市、長門市、美祢市、阿武町、山口市から構成される「萩・小郡間地域高規格道路整備促進同盟会」等から本区間の早期整備を要望されている。

**学識経験者等の第三者委員会の意見**  
山口県の新規事業の事業評価が実施され「妥当」との位置づけ

**事業採択の前提条件**  
・費用対便益：便益が費用を上回っている。  
・地元自治体から、早期整備の要望を受けており、円滑な事業執行が可能な環境が整っている。

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.8	総費用：199億円 （事業費：192億円 維持管理費：6.6億円）	総便益：353億円 （走行時間短縮便益：272億円 走行費用減少便益：51億円 交通事故減少便益：30億円）	基準年 平成25年
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.6 (交通量 -10%)	B/C=2.0 (交通量 +10%)	
		事業費変動	B/C=1.6 (事業費 +10%)	B/C=2.0 (事業費 -10%)	
	事業期間変動	B/C=1.7 (事業期間 +20%)	B/C=1.9 (事業期間 -20%)		
事業の影響	自動車や歩行者への影響	評価	根拠		
	渋滞対策	—	注目すべき影響はない		
	事故対策	○	絵堂～明木間のバイパス整備により、現道を通過していた自動車交通がバイパスへ転換され、死傷事故率の高い角力場交差点の事故が減少 【死傷事故率】 角力場交差点死傷事故率194.4件/億台・km 山口県平均55.5件/億台・km(約3.5倍)		
	歩行空間	—	注目すべき影響はない		
	住民生活	○	第三次救急医療施設(山口大学医学部付属病院、山口県立総合医療センター)や第二次救急医療施設等へのアクセス向上		
	地域経済	○	高規格な道路ネットワークの構築により、速達性や定時性の向上が図られ、観光産業や水産業などの地域産業の活性化が期待される。 (萩市の観光客数：233万人/年 道の駅「萩シーマート」観光客数：137万人/年)		
	災害	◎	第一次緊急輸送道路である国道262号、国道490号、県道萩秋芳線の代替機能が確保される。 豪雨時等の災害による萩市明木地域の孤立集落が解消される。(870人/343世帯) 防災点検要対策箇所8箇所を回避する。		
環境	—	注目すべき影響はない			
地域社会	○	人口、重要港湾や空港、産業団地などの産業活動に重要な施設は山陽側に集中しており、陰陽で格差が見られるが、小郡萩道路全線の整備によりアクセス性が大幅に向上し、地域間の交流連携・促進が図られ、陰陽格差の解消が期待される。			
事業実施環境		地元自治体から、早期整備の要望を受けており、円滑な事業執行が可能な環境が整っている。			

採択の理由

事業主体である山口県が実施した評価結果に基づけば、費用便益比が1.8と、便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。  
また、豪雨時等の災害による孤立集落の解消や緊急輸送道路の代替性の確保、救急医療施設へのアクセスの向上、高規格な道路ネットワークの構築による観光産業や水産業などの地域産業の活性化など、当該事業の必要性・社会全体への効果は高いと判断される。  
以上により、本事業は平成26年度新規事業として妥当であると考えられる。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率用いて基準年の価値に換算し累計したものの。